

2026 年度(令和 8 年)

事業計画書

社会福祉法人 福寿会

目次

1	法人理念	2
2	基本方針	3
3	理事会及び評議委員会の開催	4
4	施設概要	5
5	介護部門	6
(1)	入所・住居系	6
①	特別養護老人ホーム	6
②	ショートステイサービス	9
③	グループホームアクール	10
④	住宅部門	10
(2)	通所系	12
①	デイサービス	12
(3)	訪問系	12
①	訪問介護ステーション	12
②	訪問リハビリテーション	13
(4)	居宅介護支援事業所	13
6	医療部門	14
(1)	平城園診療所	14
(2)	あきしの整形外科クリニック	14
7	保育部門	15
(1)	登美ヶ丘マミーズ保育園	15
(2)	福寿会マミーズ保育園	16

1 法人理念

【法人の基本理念】

1. その人の人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

【法人の基本方針】

1. 地域福祉の拠点として、地域から信頼される法人を目指します。
2. 利用者から評価される安心できる質の高いサービスを提供します。
3. 人材確保と育成に取り組み、職員の質の向上に努めます。
4. 各種制度や法改正の意思や方向性を見極め、中長期的視野に立った安定した 経営を構築します。
5. 財務情報公開、行政の認証制度、苦情解決等の透明性の確保に努めます。

2 基本方針

令和7年度は、「経営基盤の強化」と「人材育成」をテーマに掲げ、法人運営の土台づくりに注力してまいりました。各部門において業務の整理や役割の明確化を進めるとともに、人材育成に関する取組についても一定の定着が見られ、概ね計画通りに推移した一年であったと総括しております。

また、人材確保の面では、採用手法の見直しや情報発信の強化等により、応募数は徐々に増加するなど、一定の成果も現れ始めております。一方で、法人全体として必要とする人材数にはなお達しておらず、安定した事業運営および将来を見据えた体制構築のためには、引き続き採用強化に取り組む必要がある状況です。

これらを踏まえ、令和8年度は、前年度までに整備してきた経営基盤を土台としつつ、「人材の確保と育成」をより一層重視する一年と位置付けます。採用活動については、これまでの取組を継続・発展させながら、必要な人材の確保を図るとともに、採用後の育成および定着に向けた体制整備を進めてまいります。人数の確保を優先しつつも、単なる人員補充にとどまらず、法人の将来を担う人材が育ち始める組織への転換を目指します。

令和8年度は、拡大を急ぐのではなく、人材への投資を通じて組織の基礎体力を高める年度と位置付け、法人全体で方向性を共有しながら計画的に取り組んでまいります。これにより、「人が育つ組織になり始めた」と実感できる状態をつくり、次の成長段階へ進むための礎を築いてまいります。

3 理事会及び評議委員会の開催

(1) 2026年度における理事会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2026年6月	2025年度 事業報告・決算報告
2027年3月	2026年度 補正予算 2027年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

(2) 2026年度における評議員会を次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
2026年6月	2025年度 事業報告・決算報告
2027年3月	2026年度 補正予算 2027年度 事業計画・収支予算
適宜開催	必要に応じて

(3) 選任解任委員会を、次のとおり開催する

開催月	主な審議事項
適宜開催	評議員の選任及び解任

(4) 監事による監査

- ① 監事は理事会に出席し、理事会の運営状況、法人の財産の状況を監査する。
- ② 監査報告書を作成し理事会及び奈良市長に報告する。

4 施設概要

施設 1

名称	平城園	住所	奈良市秋篠町 1567
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホーム平城園	
ショートステイ		平城園ショートステイ	
グループホーム		グループホームアクール	
サービス付き高齢者向け住宅		ヴィラ秋篠	
デイケア		あきしの整形外科デイケアセンター	
訪問介護ステーション		平城園ホームヘルプステーション	
訪問リハビリテーション		平城園訪問リハビリテーション	
居宅介護支援事業		平城園在宅介護支援センター	
内科診療所		平城園診療所	
整形外科診療所		あきしの整形外科クリニック	
企業内保育所		福寿会マミーズ保育園	

施設 2

名称	ならやま園	住所	奈良市山陵町 1085
実施事業		事業所名	
特別養護老人ホーム		特別養護老人ホームならやま園	
ショートステイ		ならやま園ショートステイ	
デイサービス		ならやま園デイサービスセンター	
訪問介護ステーション		ならやま園ホームヘルプステーション	
居宅介護支援事業		ならやま園居宅介護支援事業所	
軽費老人ホーム		ケアハウス ニューライフならやま	

施設 3

名称	グレイス福寿	住所	奈良市山陵町 1485
実施事業		事業所名	
サービス付き高齢者向け住宅		グレイス福寿	
デイサービス		奈良デイサービス	

施設 4

名称	登美ヶ丘マミーズ保育園	住所	奈良市中登美ヶ丘五丁目 34-1
実施事業		事業所名	
保育所型認定こども園		登美ヶ丘マミーズ保育園	

5 介護部門

(1) 入所・住居系

① 特別養護老人ホーム

a 特別養護老人ホーム平城園

令和7年度は「働き甲斐のある職場作り」「人材育成」をテーマとして取り組んだ。新人事考課制度によりそれぞれ職員の役割や責任が明確になり、適正な人事評価や人材育成により、雇用の安定に努めた。令和8年度はISO25554認証制度による福寿会のウェルビーイングを推進し、「職員が安心して働き、それぞれの専門性を活かして一人ひとりが成長できる職場環境作り」「利用者の尊厳と生きがいを大切にした支援体制の整備」「地域との連携体制の強化」に取り組んで参る。

➤ 介護部門（従来型特養）

- 豊かな生活を提供できる体制づくり
 - ・ 楽しみや健康の元となるレクリエーションの推進
 - ・ ICTのさらなる展開による業務効率化促進
- 人材育成・雇用の安定化・職場環境づくり
 - ・ 職場環境の改善と適正な人事評価による人材定着推進
 - ・ 外国人職員と指導育成担当者双方のスキルアップ
- ウェルビーイングの推進による職員の活性化
 - ・ 人員体制の安定による、業務負担の軽減とケアの質の向上
 - ・ ヘルスケアに関する施策や研修等、施設によるサポート
- 地域との交流、連携体制の強化
 - ・ 医療・学校・地域団体・ボランティアとの連携や交流を深める
 - ・ 災害時、緊急時における地域との連携体制の強化

➤ 介護部門（ユニット型特養）

- 職員全員がユニットケア、暮らしの在り方を理解し、入居者個々の尊重、自立支援を意識した支援を目指す。
 - ・ 研修等の参加を通し、知識の底上げを図る。
 - ・ 「施設の当たり前」に気付き、入居者の快適な暮らしを意識して取り組む。
 - ・ 福祉機器の適切な導入と活用及び、ケアの統一を図る。
- 関わる全ての人々が心地よく過ごせるよう目指す。
 - ・ 丁寧な言葉遣い、清潔感のある身だしなみ、整理整頓に努める。

➤ 看護部門

- 利用者の健康管理、異常の早期発見を行い、適切な医療が提供できるよう努める。
- 平常時の感染対策を徹底し、感染拡大防止するに努める。
- 利用者・家族に安心して頂ける看取り介護の提供が行えるよう、多職種との連携を図る。

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を真摯に受け止め、心身の両面から多角的に評価した個別機能訓練計画書を策定する。
- 身体機能の維持・向上を目指し、エビデンス（科学的根拠）に基づいた効果的なリハビリテーションを実践する。
- 残存能力を最大限に引き出す介助を追求し、適切な介助技術の指導・共有を通じて、日常生活動作の自立を支援する。
- 他部門・他部署と信頼関係を築き、専門性を活かした相互協力体制を確立する。
- 重度者や看取り期の利用者に対し、拘縮・褥瘡予防を徹底し、安楽に過ごせる環境調整とポジショニングを追求する。
- 摂食嚥下障害が疑われる利用者においては適切な評価を行い、多職種との連携により、安全で楽しみのある食事環境と介助法を支援する。

➤ 栄養管理部門

- 施設は利用者の生活の場である事を意識し、家庭的で各個人の嗜好も考慮し、旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食の実施により季節の移り変わりや、生活の中に変化と楽しみのある食事を提供していく。
- 食中毒やノロウイルスの予防と集団感染時の対応を強化し、衛生管理を徹底する。
- ミールラウンドを行うことで、ご利用者様の健康状態を把握し、個々に見合った栄養ケア計画の作成と食事の提供を行う。
- 災害発生時などの緊急時もBCPに基づいて食事継続を行う。
- 子どもの成長には個人差があるため、家庭と連携し、食事を通して心身の健康な発達を促す。

➤ ボランティア部門

- 令和7年度は地域のボランティアの他、家族の協力も得て充実した活動を実施することができた。今年度も引き続き、職員・家族・地域が協力して、利用者の日常に楽しみ・癒しを提供できるよう努める。

➤ 介護サービス支援室

- 利用者・家族の声を大切に聞き、ケアの質の向上を支援する。
- 行事・レクリエーションの機会を創出し、施設生活の質の向上を目指す。
- 会議や研修への参加意識の向上を図り、職員のスキルアップに繋げる。
- 地域へ向けた健康増進イベントに参加継続し、地域福祉へ貢献する。

b 特別養護老人ホームならやま園

令和7年度においても新型コロナウイルス含め感染症がみられたが、日常から感染予防意識を継続することにより、最小限に抑える事ができた。引き続き日頃の予防対策、緊急時の対応の徹底に努め、利用者の安全・安心の確保を目指す。また外国人職員も5名と増えており、人材の確保に繋がっている。引き続き、指導を通じて、人材の確保と育成、組織の活性化に繋げていきたい。今年度も、人と人のつながりを意識して、生活の場を豊かに彩れるような生活の援助に取り組んでいきたい。

➤ 介護部門（従来型・ユニット型特養）

- 外国人職員の指導・育成に力をいれ、職員の活性化、業務改善、負担軽減に繋がると共に、人材の安定、ケアの充実を目指す。
- 介護接遇の向上を目指し、利用者や家族の尊厳を守り、敬意と思いやりをもって信頼関係の構築を目指し、満足度の高いケアを目指す。
- IT機器を活用し、介護職員の負担軽減、業務の効率化を図るとともに、利用者の安全を守る。
- 地域の防災拠点としての役割を果たす。災害時を想定した訓練を実施し対応の確認、周知を行う。

➤ 看護部門

- 利用者の心身の変化に適した医療を提供する。
- 利用者や家族の意思を尊重した看取りを提供する。
- 感染症対策の知識と技術の向上を目指す。

➤ 機能訓練

- 利用者及び家族の意向を尊重し多職種連携の基、その人らしい生活が送れるよう、また安全安楽に過ごせるよう「身体機能」「精神機能」の維持・向上を図る。
- 利用者の更なる自立支援と重症化防止のため、あきしの整形外科クリニックと連携しリハビリ職員の助言の基、共同で「個別機能訓練計画書」を作成し、主観的及び客観的評価と、科学的根拠に基づいた個別機能訓練を実践する。
- 個々の日常生活動作能力の維持・向上が図れるよう、介護士と連携し「生活リハビリ」のプランを決定する。また、残存能力を発揮する事で身体機能の維持・向上が図れるよう介助方法の指導・伝達等を行う。
- 状況に応じて「ポジショニング・シーティング」・「生活リハ・個別機能訓練内容」・「福祉用具」の見直しや変更を行っていく。
- 感染症による隔離フロアに介入し、感染症対応に伴う身体機能低下の防止を行っていく。

➤ 栄養管理部門

- 栄養ケアマネジメントの実施や療養食の提供により、多職種協働で利用者の健康を維持して頂けるよう取り組む。個々の利用者の嚥下状態や身体状況に適した食事や嗜好を考慮した喜ばれる食事の提供に努める。
- 家庭的で季節感のある食事の提供に努める。日常生活に変化や楽しみを持って頂けるよう、行事食や誕生食の提供を行う。
- 食中毒予防や感染症対策など衛生管理を徹底し、安全な食事の提供に努める。
- 非常災害時に備えて非常食を使い捨て容器と共に4日分備蓄し、無駄なく入れ替えを行う。非常災害時に全職員が活用出来るように備える。

➤ ボランティア部門

- イベントや移動スーパーに関しての手伝い、慰問の受け入れやおやつ販売など、利用者の生活に楽しみと癒しになるよう援助を行う。

② ショートステイサービス

a 平城園ショートステイサービス

利用者の在宅生活の継続と家族の負担軽減を目的とし、安心して利用いただけるよう質の高いケアの提供に努める。安定した稼働の為、引き続き法人内各事業所、各在宅支援事業所との連携を密にしていく。

- 入居者と同様に、楽しみや健康増進の機会を提供する
- 利用者・家族と信頼関係を維持し、個々の要望や不安点に対応していけるよう都度サービスの提供方法について検討する
- 他事業所との情報交換を随時・定例で密に執り行い、圏域に潜在するニーズをサービス利用に繋げる。

b ならやま園ショートステイサービス

職員ひとりひとりが、利用者の在宅生活を支えるチームの一員であることを認識し、利用者に寄り添う支援を心掛け、安心・安全に過ごせるサービスの提供を行う。

- 職員の人材育成、介護サービスの質の向上、介護接遇の向上に努め、安心して利用が継続できる環境を整える。
- 新規や緊急ショートについても積極的に受け入れ、多様なニーズに合わせたサービスの提供を行う。
- 家族、事業所、関係各所との連絡を密にし、在宅での生活が継続できるよう情報の共有に努め、家族の身体的・精神的負担の軽減も図る。
- 平城園ショートステイサービスと連携を図り、相互に協力する。

③ グループホームアクール

令和7年度において、2フロア18名満床を達成することができた。

引き続き質の高い認知症ケアの充実を図ると共に、福寿会中長期計画に基づき、安定した施設運営および地域との連携体制の強化に努めていきたいと考える。

➤ 認知症ケアの充実

- “質の高い認知症ケア”を普及させることを目的とした外部研修（認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修）の受講者を中心とし、利用者に寄り添った個別支援、専門性をもった認知症ケアの提供に努める。
- 職員個々のスキルアップの機会（施設内外における研修や会議、個別面談等）を確保することで、サービスの質の向上に努める。

➤ 地域に根付いたホームづくり

- 運営推進会議を通して、ホームの情報を発信するとともに、地域とのつながり、特に自然災害発生時における地域との連携体制の構築に努める。

➤ 安定した施設運営を目指す

- 2フロアの安定稼働（18床満床）を継続するために、法人内外の居宅介護支援事業所および、法人内各事業所間において積極的な連携を図る。

④ 住宅部門

住宅部の3事業所が切磋琢磨しながら、各種在宅サービスやあきしの整形、平城園診療所の利用促進を図っていくことはもちろん、平城園、ならやま園の両特養やアクールとも綿密な連携を図り、法人としてのサービスフローを確立させることでご入居者や地域から必要とされる「高齢者の住まい」を目指す。また、地域にとって身近な入居事業所として、法人が中長期計画として掲げた「地域における公益的な取組を推進し、地域とのより良い関係を継続」するため、入居者及び家族の抱える問題を地域社会の課題として捉えその解決に取り組むとともに、地域共創として様々な地域活動に積極的に取り組み、新たな地域体系の構築を目指す。

a ケアハウス ニューライフならやま

住宅部門の方針を念頭に、ならやま園特養との連携によるメリットと、BCPの視点から独立した事業所としての存在価値を明確化させる。

➤ 安定した運営

- 空室時のフォローアップ体制を住宅部として確立させる
- 継続的な営業体制を確立させる
- 費用の改定も念頭に入構造を見直し安定した経営を目指す
- 感染時等における独立したBCP。

➤ 余暇活動や相談対応など入居者の支援体制を強化し住まいとしての価値を高める

- 職員の役割を見直し、リーダー層の育成に努める
- 個別又は少人数での対応の増設。
- 季節行事、個別外出、住宅部合同イベントなどの機会を増設。

b サービス付き高齢者向け住宅ヴィラ秋篠

住宅部門の方針を念頭に、入居年数の長くなった入居者の特養等の介護施設や体調悪化による医療施設への転居が続いている現状を受け止め、法人内フローがスムーズに行えるような新たな枠組みを構築する。また、配置職員の年齢構成に偏りがあり、今後を見据えしっかりとした人材育成を図るとともに、それぞれの役割を明確化させていく。

➤ 人材育成

- 中心となって事業所をまとめるリーダー層の育成が急務。
- チームを入居者支援担当と事務担当に再編し新陳代謝を図る。

➤ 入居者の満足度向上

- 料金改定に合わせて、それに見合った接遇が提供できるよう、接遇員会の活動を通じて各人の接遇能力を向上させる。
- イベントの実施や送迎等については、住宅部として効果的で効率の良い提供方法を確立する。
- 運営懇談会の年2回開催を目指す。

➤ 予算に対する意識付け

- 料金改定による入居者や地域からマイナスイメージの早期脱却を図り、以前のように、退去者が出た際のリカバリーのペースを高める。
- 人件費を抑えるための業務改善に取り組むとともに、事務費の支出を見直し必要なメンテナンスに充当させる。

c サービス付き高齢者向け住宅グレイス福寿

住宅部門の方針を念頭に、早期の満床を実現させるために可能な限りの手段を検討し実行に移す。また、職員全体のレベルアップを図るべく、人材育成や役割の明確化をすすめる。

➤ 安定した運営とサービスの向上

- 早期の満床を目指し計画的な営業活動を実施する。
- 地域にアピールできる機会を定期的に作る。
- 料金改定に合わせて、それに見合った接遇が提供できるよう、接遇員会の活動を通じて各人の接遇能力を向上させる。
- イベントの実施や送迎等については、住宅部として効果的で効率の良い提供方法を確立する。
- 中心となって事業所をまとめるリーダー層の育成が急務。
- チームを入居者支援担当と事務担当に再編し新陳代謝を図る。

(2) 通所系

① デイサービス

a 奈良デイサービスセンター

- 安定した新規利用者の獲得
 - 新規相談の利用者及び家族や介護支援専門員に対し見学を促し活動を広く知ってもらう。利用者満足度を上げるべくイベントの実施及び、家族や介護支援専門員に対して広報誌を発行する。
- 保育園との交流
 - 法人内保育士と介護職員とで定期的に会議を開催しイベントや交流機会を持つ。
- 人材育成
 - 外部研修や他の通所介護事業所を見学する機会を持ち職員のスキルアップにつなげる。

b ならやま園デイサービスセンター

- 営業、広報活動を積極的に行い、新規利用者の獲得を継続し離脱者を未然に防ぐ工夫を行い、登録利用者の増加、維持を目指す。
- 利用者及び家族が安心して充実出来る支援の継続をめざし職員の育成を行う。
- 年間の予算、コスト面を意識しつつ老朽化している設備等を見直し、より快適に過ごせる環境を整える。

c あきしの整形外科クリニックデイケアセンター

- 身体機能の維持向上
 - 自立した在宅生活を支えるための、根拠（エビデンス）に基づいた質の高いリハビリテーションを提供する。
- 認知度向上
 - 広報誌発行や事業所訪問を通じて情報を発信し、新規利用者の獲得と認知度向上を図る。
- 地域連携
 - 多職種との強固な連携により、利用者の『やりたい』を叶え、社会参加支援を具体化できる地域包括ケアの一員となる。

(3) 訪問系

① 訪問介護ステーション

a 平城園ホームヘルプステーション

- 接遇・言葉遣い・関わり方を重視した支援を徹底し、利用者満足度の向上を図り、質の高いサービス提供を実現する。
- 人材の安定確保のため Instagram 等の SNS を活用し、事業所の雰囲気や支援内容を伝え応募につなげる。
- 奈良市の子育て支援事業「エンゼルサポート事業」の受託により子育て支援において地域に貢献する。

b ならやま園ホームヘルプステーション

- 地域の中で利用者本位の、より質の高いサービスが提供できるようヘルパー一丸となって努める。
- 訪問介護員の高齢化に伴い、新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。

②訪問リハビリテーション

a 平城園診療所訪問リハビリテーション

b あきしの整形外科クリニック訪問リハビリテーション

利用者及び家族の意向を尊重し、住み慣れた地域で可能な限り自立した生活が継続できるよう、身体機能と日常生活動作の維持・向上に努める。

- 利用者の状態を主観・客観の両面から評価し、適切な目標とリハビリ計画を策定する。
- 計画に基づいた的確な介入により、生活の質（QOL）の維持・向上を図る。
- 医療保険によるリハビリが終了する方やその家族のニーズを真摯に受け止め、適切なサービス提供や代替案の提示を丁寧に行う。
- 医師・介護支援専門員と密に連携し、地域包括ケアの一翼を担う存在として利用者の自立支援と社会参加を促進する。

(4) 居宅介護支援事業所

a 平城園在宅介護支援センター

- 令和8年度の目指すべき方向性
昨年度に引き続き積極的な外部研修への参加および内部研修を通して得た知識を活かし、さらに質の高いケアマネジメントを提供し、地域における信頼を獲得・維持することで利用者からも地域包括支援センターからも選ばれる居宅介護支援事業所として法令順守に則った利用者本位の支援を継続する。
- 介護支援専門員のメンタルヘルス対策を充実させ、心身ともに健康でやりがいを持って働き続けられる環境を醸成していく。
- 地域包括支援センターとの連携を通して地域包括ケアシステムの構築に協力する。
- 医療との連携をさらに深めることで、入退院時の情報連携を密におこない、自宅から病院、または病院から自宅あるいは施設への移行を利用者が安心しておこなえるよう努める。

b ならやま園居宅介護支援事業所

引き続き、ヤングケアラー・障がい者・生活困窮者・難病患者等、他制度に関する知識を深めながら重層的支援への対応を心掛け、行政・地域・医療・介護の連携の下、利用者が住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援するとともに、利用者が適正にサービスを選択できる利用者本位の支援に努める。

- 地域包括支援センターと連携し、支援困難ケースの積極的な受託・対応を継続する。
- ICTを積極的に活用した業務の効率化および情報共有に努め、居宅介護支援事業所としてのケアマネジメントの質の向上を目指す。

- 公正中立なサービスの選択および情報の開示等により、居宅介護支援の適正化を図るとともに、利用者の意思決定支援を尊重し利用者本位の支援に努める。
- 認定調査業務の受託（ケアマネ1人当たり月4件を目指す）

6 医療部門

(1) 平城園診療所

利用者の視点に立った気配りができる、信頼される医療を提供する。

- 法人事業所の利用者と職員の健康管理及び疾病治療・予防に努める。
管理医師、診療所看護師と特養看護師が連携し、利用者の日常的な回診を実施し、重症者への対応は関係医療機関と連携を図りスムーズな対応を行う。
- 各種ワクチン接種などの感染予防、定期健康診断の実施による疾病の早期発見に努める。
- 職員の健康管理について、産業医と衛生管理者との連携を図り、法人全体の衛生向上に貢献する。

(2) あきしの整形外科クリニック

- 地域の救急・整形外科診療のニーズにこたえるとともに高齢者の視点に立った信頼される医療の提供を目指す。
- 受診してよかったと思っただけよう患者さんの視点に立った医療を提供する。
- デイケアと連携を図りながら高齢者の健康寿命を援助する。
- 介護認定者のリハビリの医療と介護のすみわけを進める。
- リハビリテーションの提供の時間を拡大し充実を図る。

7 保育部門

(1) 登美ヶ丘マミーズ保育園

こども園に移行して1年が経過した。保育所と幼稚園の両方の機能をあわせもち就学前の教育・保育を一体的に行うことと地域の子育て支援の場の提供を行うことを目的とし、全職員が一丸となって保育の質の向上を図ることに努めている。人生の根っこを育てる乳幼児教育の重要性を再認識し、子どもたちの「知りたい」「学びたい」「やってみたい」という思いを大切にし、主体的に学ぶ力や創造力の育成を図るとともに、対話や試行錯誤を通じた学びの充実に努めていく。

▶利用定員

年齢区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1号	-	-	-	5人	5人	5人	15人
2号				19人	19人	19人	57人
3号	9人	12人	12人				33人
合計	9人	12人	12人	24人	24人	24人	105人

▶保育理念

心身の健全な育成を図り、豊かな「生きる力」
何でも自分でやれる 考える「創造力」
優しい思いやりのある「温かい心」 を育てる。

▶保育内容

① 養護と教育を一体化した保育

- ・乳児は、育児担当制にし、愛着形成を基盤とした個別対応を行い、一人ひとりの発達の特성에応じて丁寧な保育に努める。
- ・3・4・5歳児は、幼児が主体的に遊ぶための環境構成や援助の在り方を探る。

②安全・安心の園

- ・子どもの命を守ることを最優先にする。
- ・園内の安全点検を毎週1回実施し、危険個所の把握と改修を迅速に行う。
- ・毎月1回の避難訓練を行い、災害時・緊急時・不審者対応に冷静かつ迅速に行動できるようにする。

③食育・給食

- ・農園で野菜を育て、収穫野菜は給食で頂く。「食べ物への興味」と「感謝」の気持ちを育む。

④カリキュラムの特色化

- ・現状のカリキュラムを維持しつつ、さらに運動能力の向上、外国語活動の強化、アートや絵本の読み聞かせなどの情操教育に取り組む。外部の専門講師を招聘し、英語教室・体操教室・サッカー教室・お話の会を行う。
- ・課外保育としての放課後イングリッシュスクール・ダンス教室・スポーツ教室を継続して行う。

⑤保育行事

- ・作品展や運動会、発表会は子どもが考えてつくっていく子ども主体の行事に努める。

▶園児募集対策

- ・園活動内容をホームページで敏速にアップし、広く園の活動を知らせる。
- ・園見学者を随時受け入れ、園の保育・教育や特色をアピールし、入園に繋がるように努める。
- ・保育を充実させ、保護者の良い口コミを増やし、1号認定の園児の志願者に繋げる。

▶子育て支援

- ・一時預かり保育事業、園庭開放・マミーズ広場（親子の集い）の定期的な実施。

▶地域交流

- ・法人高齢者施設との交流
 - ・国際中学校の保育実習、国際高校家庭科クラブとの交流
 - ・地域のイベントへの積極的参加
- など、交流を通して優しい思いやりのある「温かい心」を育む。

▶年間会議・研修

- ・職員会議（月1回）、給食会議（月1回）、リーダー会議（月1回）
乳児部会・幼児部会（月1回）
園内研修（月1回）、保育内容研修、キャリアアップ研修の積極的参加

▶保育者の資質向上

- ・研究保育（年間6回）や職員研修の計画的な開催及び外部研修への参加を通して職員の指導力の向上を図る。

▶保健衛生

- 定期健康診断（年2回） 歯科検診（年2回） 眼科検診（年1回）
身体測定（年12回）
職員定期健康診断・ストレスチェック（年1回） 検便検査（年12回）

▶保護者支援

- 参観を通して子どもの成長をみてもらう。
個人面談（年1回、随時）、園便りや日々の子どもの様子をICT活用して配信。

▶評価

- 保護者アンケート、園の自己評価を行い、結果を保護者に公表する。

(2) 福寿会マミーズ保育園

従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供し、企業連携先のお子様に対しても同様のサービスを提供する。又地域枠を設け、積極的に地域の子どもを受け入れ定期利用の空き定員を利用した、一時預かりサービスを行う。

保育士が指示をする保育ではなく、子ども自身が自分で考え、表現し、「子どもが主役」となる

主体性ある保育を提供する。

- 季節を通して安全で楽しい保育が提供できるようにする。
- 園外散歩を多く取り入れ、季節を通して安全で楽しい保育を提供する。
- 小規模ならではの家庭的でゆったりとした雰囲気の中、支援が必要な子どもには、成長に応じた出来る限りの支援を提供し、子ども一人一人に寄り添った保育を提供する。
- 異年齢交流を中心とした、縦割り保育を取り入れ異年齢に対する思いやりと、社会性、協調性を育む。
- 施設交流や、手作り玩具を通じて「ありがとう」の気持ちとお年寄りを敬う気持ちを育む。
- 保護者の育児負担をサポートしていけるように、保護者が気軽に相談とお預かりができる環境をつくる。
- 月に 2 回の英会話に参加する事で、英語の音やリズムを吸収し、言語習得の土台作りや多様性受容の心の育成につなげる。
- 保育士の積極的な研修参加を促し、保育士一人一人の資質向上と安心・安全な保育を目指す。

■ 年間行事

	主な行事		主な行事
4 月	入園	10 月	マミーズ祭り
5 月	子どもの日・内科検診・個人懇談	11 月	個人懇談・内科検診
6 月	歯科検診・歯みがき指導	12 月	クリスマス・お餅つき・歯科検診
7 月	七夕・水遊び	1 月	お正月
8 月	不審者訓練	2 月	節分・不審者訓練（園外活動中）
9 月	施設交流（デイサービス訪問）	3 月	ひなまつり